

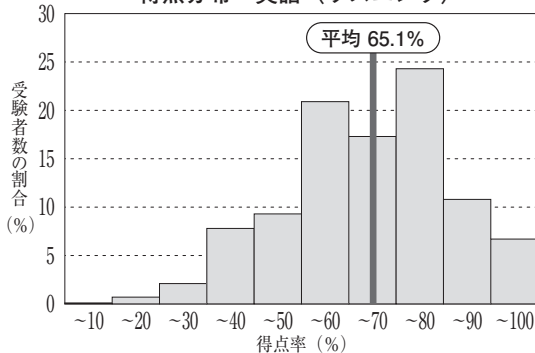
英語 (リスニング)

少しでも上を目指して最後までがんばろう！

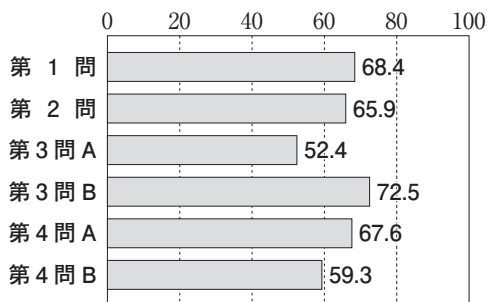
I. 全体講評

今回の受験学年の平均点は32.5点で、得点率にして約65%という結果だった。筆記テスト同様に、残された時間を最大限に活用し、少しでも上を目指してほしい。今回の大問別得点率を見ると、いずれも50%台から70%台の範囲内にあり、総じて安定していたことがわかる。終盤においても大きく崩れなかった点は評価できるだろう。小問レベルで見ると、正答率が30~40%台に終わったものもいくつかあるが、間違えた箇所については個別によく見直してほしい。今回は無難に切り抜けた第4問であるが、ここは最後に設けられた難関である。本番でも最後まで集中して乗り切ってもらいたい。ここで好成績を収めれば大きな差をつけることにもなるだろう。残りわずかな期間といえども、筆記問題対策と同様に耳のトレーニングも怠りなく続けてほしい。

得点分布 英語 (リスニング)



大問別得点率 (%)



II. 大問別分析

第1問 対話の聞き取り(数値・語句・イラスト選択)

単語1つの聞き取りで結果が分かれる！

第1問の今回の得点率は68.4%とまずまずの成績であった。ただ、小問別正答率を見ると、30%台から90%台と大きなばらつきがあった。正答率が30%台だったのは問1のイラスト問題であり、40%台に終わったのは問2の数値(金額)問題である。今回の問1の場合、「つま先が丸い」靴にあたる③、④は大半の人が選んでいたが、その半数以上が「靴ひも」の有無というところでミスをしてしまった。本文の without laces を with laces と取ったのかもしれないが、惜しまれる失点である。毎回予想されることだが、イラストと数値に関する設問はやはり大きなハードルである。苦手とする人は過去の類似問題を見直しておこう。

第2問 対話の聞き取り(応答文選択)

対比的な語句の使い方に注意しよう！

第2問の得点率は65.9%と平均的な成績であった。ただし、小問別の正答率にはばらつきがあり、30%台から80%台まで及んでいた。最も正答率が低かった問10は、「手頃な料金で適当なホテルを教えてもらえないか」という相手に対する応答を選ぶ問題なので、それを否定して「どこも料金が高い」と答えた③が正解となるが、この正解よりも④「以前そこに泊まったことがある」を選んだ人のほうが多かった。ここでは本文の affordable と選択肢の expensive が対比的に使われているが、こうした語句の使い方は質問に対する否定の応答の中でよく見られる。質疑応答のパターンとして心に留めておこう。

第3問 A 対話の聞き取り(質問に対する答えの選択)

紛らわしかった時刻の聞き取り問題。

今回の第3問 A の得点率は52.4%で、すべての大問の中で最も低かった。小問別の正答率を見ると、いずれも40~50%台で、極端に不出来な問題

があったわけではないが、全体的にやや紛らわしかったようだ。問15では、数値問題の1種である時刻の聞き取りがテーマであった。12:40、9:40という時刻の表現に加え、three hours earlierという時間差の表現が交じって、瞬時の判断を難しくしていた。この大問は対話文を完成させる第2問とは異なり、完結した対話文に基づく内容一致問題であるが、質問内容が自由であるだけに、第1問と同様にこうした数値に関する問題も出される可能性があることを念頭に置くべきであろう。

第3問B 長めの対話の聞き取り

取りこぼしをなくし、さらに上を目指そう！

第3問Bの得点率は72.5%で、今回のすべての大問の中で最もよくできていた。ただし、小問別の正答率を見ると、40%台の箇所が1つあり、それが少々足を引っ張ったのが惜まれる。ここでは対話文の聞き取りに加え、図を見ながらの解答求められるので、少しでも集中力を欠くと思わぬ取りこぼしにつながりかねない。また、第3問Aとは異なり、長い1つの対話文に基づいて、それを聞きながら3問を処理するのは、やはり違った難しさがある。本文が長くなれば、それを耳で受け止めて理解する速さも違ったレベルが求められるからだ。間違えた箇所があれば、どこに原因があったかをよく考え、メモの取り方に工夫の余地はないか検討してもいいだろう。

第4問A 長めの文章の聞き取り

さらにトレーニングを重ね、万全の準備を！

今回の第4問Aの得点率は67.6%で、まずまずの出来であった。小問別の正答率は50%台から80%台の範囲内で、特筆すべき問題点は見当たらない。リスニング問題では後半徐々にハードルが高くなる。ここは1人の話者による長めの本文を聞き、3つの内容一致問題に答える箇所であるが、聞き取る分量が多い上に、内容面もより複雑である。これに対処するのに、にわか仕込みの対策では通用しない。設問に関して言えば、内容一致問題の性格上、本文と選択肢では同じ表現を避けるのがふつうであるから、やはり類似問題にどれだけ慣れていられるかが問われることになるだろう。不安を感じる人は多いであろうが、本番までの短い期間であっても、常に英語の音声に耳を傾けるとともに、過去問を見

直しておくことをすすめたい。

第4問B 長めの会話の聞き取り

過去問を見直し、本番に備えよう！

今回の第4問Bの得点率は59.3%で、まずまずの成績であった。最後の問25の正答率が50%を割ったのがやや残念だが、全体として見れば悲観するほどではないだろう。ここでは、エリーの発言に続いて、他の2人がそれに賛同し、合意に達している点を考慮すべきである。そこで、②が最適な選択肢となるわけである。③を選んだ人がほぼ同数いたが、こちらはジーナの提案内容にあたるもので、エリーが否定している。間違えた人は再度本文と照らし合わせてみよう。現行のセンター試験リスニング問題では、2人もしくはそれ以上の対話や会話に重点を置くようになっている。本模試を含めて過去問を見直し、本番に備えてもらいたい。

Ⅲ. 学習アドバイス

今回は簡単に第4問の注意点に触れた後、全体のアドバイスを述べたい。第4問Aは1人の話者がある物事について述べる形式である。説明的な文章を聞くことになるので、第3問までの会話形式に比べると、内容的に難しく感じられるかもしれない。また第4問Bは聞き取る分量や話者の数も多いため、苦手だと感じてしまう人もいであろう。ただし、受験生が日頃読んでいる長文問題よりも難しい内容がリスニング問題で出題されることはないと考えてよい。長文の問題集を利用して音読をし、その後、センター試験の過去問の第4問を音読してみると、内容的にいかにか簡単かがわかる筈だ。リスニングの第4問といえども恐るるに足らずという気持ちで挑んでほしい。

入試直前期ではあるが、リスニングが苦手な人は、1日に5分でも10分でもよいから、毎日英語を聞いて耳を慣らしてもらいたい。そして、耳の感覚をそのまま研ぎ澄ました状態で本番に臨んでもらいたい。最も大切なのは、「集中して聞く」ということだ。他の勉強をしながらBGM代わりに英語を流しても、全く効果はない。単語や熟語の暗記と同様に、最後の一日まで努力を続けることによって、少しでも力をアップさせてセンター試験当日を迎えるようにしよう。